

<2025 年度 自己評価チェック 自園の強み、弱み>

聖隷のあ保育園

昨年度同様、自園は 0.1.2 歳児を対象とする小規模園であり、乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要なものであることとそれが生涯に続くものであること全職員が理解しているようだ。特に保育内容については、経験年数、または担当の歳児によって差異はあるものの、ゆったりとした保育の中で、健康・人間関係・言葉・表現・環境について丁寧かつ、こまやかな配慮を重ねている。あえてここで挙げるとすれば、昨年度は、「環境」についての項目を弱みとして「いいえ」と答える職員が多かった。園内では保育環境を月ごと、または行事を機に再構成したり、園内勉強会で振り返ったりすることを続けている。繰り返し行う中で、「環境」への意識が高まってきたようだ。今年度は「わからない」「いいえ」と答える職員が少し減り、苦手意識が徐々になくなってきたのではないかな。

弱みとしては、昨年度よりも特別支援教育・障害児保育について「わからない」「いいえ」と答える職員が多かった。今年度は研究発表で保護者支援を深めていく中で、特性(障がい)のある子についての保護者理解とアプローチの仕方を学んでいる最中であることで、意識の高まりから、深く振り返ること傾向があるのかもしれない。今弱みとしてあげているが、今後強みになっていくものと前向きにとらえている。また、毎年挙がる国のガイドラインや法令、感染症の知識についてやはり、多くの職員が不安を感じているようだ。コドモンを導入したことから、今一度指導案の記入の仕方を見直す機会となっている。その中で、安全衛生等不安を感じる項目について園内研修をする等し、これらの項目に強化していきたい。

～強みの項目～ 先述した内容に関連するものを抜粋

【環境】

- ・子どもの主体的な活動を促し、一人ひとりが意欲を持って遊べるような援助を心掛けている。
- ・子どもは様々な環境との相互作用により発達していくことを、理解している。
- ・いろいろな素材に触れ、親しみ、イメージを豊かに持てるよう、配慮している。
- ・馴染みにくい子どもに対しても、一人ひとりに応じた適切な援助及び環境構成を行っている。
- ・いつでも安心して休息できる雰囲気やスペースを、保育室をはじめ園に確保している。

【保護者支援】

- ・健康診断の結果を、子どもに関係する他の職員と共有している。
- ・疾患のある子どもに対して、園医やかかりつけ医からの指示に基づいて対応したり、与薬を要請された場合、留意事項の確認をしたりしている。
- ・家庭では十分に睡眠をとるなど、健康な生活リズムを身に付けるよう、保護者との連携に努めている。
- ・障害のある子どもも、ない子どもも、互いの良さを感じとるように保育の配慮をしている。
- ・その日にあった出来事や気になる子どもの様子などを、他の職員と共有している。
- ・自分の保育について、園長などからの感想や意見、アドバイスを、感情的にならずに謙虚に受け止めている。
- ・保護者からの相談内容などを、園全体で受け止めようとしている。
- ・送迎の際に、保護者と言葉を交わしたり、連絡帳で情報を交換したりするようにしている。
- ・子どもの体調が良くない時など、保護者に連絡する際、その内容が相手にどう伝わるかを考えている。
- ・一人ひとり子どもについて、虐待を見抜くことができるように配慮している。

【その他】

- ・小規模園であることから、乳児期の保育に関する配慮事項や、満1歳以上から満3歳未満児の保育に関する配慮事項について、意識できている職員が多かった。

具体的な項目としては・・・

- ・乳幼児期の教育及び保育は、子どもの最善の利益を考慮してすすめることを理解できている、また家庭や地域での生活を含め子どもの生活全体が豊かなものとなるように努めている。
- ・子ども一人一人が、安心感と信頼感を持っていろいろな活動に取り組む体験を積み重ねられるよう、配慮している。また、一人一人の生命の保持が図られ、安定した情緒の下で、自己を十分に発揮する体験ができるように、心がけている。
- ・発達過程区分は、同年齢の均一的な発達の基準ではなく、一人ひとりの子どもの発達過程としてとらえている。
- ・子ども一人ひとりの特性や発達の過程に応じ、発達の課題に即した援助を行うように努めている。
- ・保護者と共に子どもを心身共に健やかに育むよう、努めている。
- ・一日の生活の連続性やリズムの多様性に配慮して、保育を展開している。
- ・一人ひとりの子どもの生理的欲求が十分に満たされるよう配慮している。
- ・登園時の子どもの健康観察を行っている。
- ・子どもとの温かなやりとりやスキンシップを常に心がけ、分かりやすい温かな言葉でおだやかに話しかけている。
- ・子どもが不安になった時にいつでも受け止められるよう、一人ひとりを視野に入れている。
- ・子どもが興味や関心を持ったものに対して、自分から関わろうとしている姿を、認めたり励ましたりしている。
- ・「できない」「やって」「いや」などと言ってくる時、その都度気持ちを受けとめて対応している。
- ・登園時、泣く子どもに対して、放っておいたり、叱ってしまうことがないようにしたり、子どもの状況に応じて抱いたり、やさしく声を掛けたりしている。
- ・衣服の着脱や食事などについて、子ども一人でできるように見守りながら援助している。

～弱みの項目～ 「いいえ」と答えた人数が多かった項目

○教育及び保育の基本と目標

- 6 環境を通して教育及び保育は、子どもの最善の利益を考慮してすすめることを理解していますか
→物理的な環境構成だけでなく、どうして大切なのか、どういった意味があったのかを指針等と照らし合わせながら深めていくとよいだろう。

○特に配慮すべき事項 教育及び保育の配慮

- 14 あなたは、0歳(入園)から小学校入学までの一貫した保育の連続性を考慮して帆いうしていますか。
→2歳児までの保育の為、小学校入学までの見通しはもちづらいか。
- 23 「だめ」「いけません」など、制止する言葉を不必要に用いないようにしている。
→新たに少し増加。特性のある子に分かりやすく伝えることを意識すると時にこういったことがあったのではないかな。

○特に配慮すべき事項 特別支援教育・障害児保育

37 一人一人の子どもの出生時から入園するまでの発育・発達の状況などを把握していますか。

→新年度、新たな職員を迎える中では、丁寧に共有していきたい。

○保育内容「人間環境」「環境」

125 外国人など、自分とは異なる文化を持った人に親しみを持つような機会を作ったり、外国の旗をみたり、かいたり、飾ったりすることによって、いろいろな国に興味・関心がもてるように工夫していますか。

146 外国の旗をみたり、かいたり・・・ 147 絵本や玩具等を用いて、様々な国の文化に触れる・・・

→横ばいで高い数値。外国人の親子が今年度入園したことから、今後、意識を高めていけることと思う。

○保育内容「表現」

177 感じたことや考えたことを、自由にかいたり、つくったりできる機会をもうけていますか。

→リズム遊びの機会が減ってしまった。新年度からはまた楽しんでいけるとよい。

○ 乳児期の保育に関する配慮事項

203 「授乳・離乳の支援ガイド」をさんh颯したりして、子どもが機嫌よく眠くならない状況の中で、食事ができるようにしていますか。

→聖隷全体で食事の提供のマニュアルが更新された。読み込み、保育で丁寧に行う。食事の移行等では保護者との共有を大切に進んでいきたい。

○満1歳以上～満3歳児未満児の保育に関する配慮事項

220 感染症に関する知識を習得し、流行時期や疾患状態を把握していますか。

→横ばい

○子育て支援

277 一人一人の子どもについて、家庭での養育方針等を知っていますか。

→家庭内の様子が見えない子どもが多い。園内の保育研究の内容として深めていきたい。保護者との何気ない会話から、様子を推し量る必要があるだろう。